

# 着眼、着手大きくいこう

## ぶつ 結婚イベント

一年後に開港が迫った静岡空港の利活用をめぐる動きが本格化してきた。開港

翌月の四月、グランシップ（静岡市駿河区）で開かれる開港記念イベント「アジアブライダルサミット」である。

キーワードは「富士山静岡空港」「アジア」「文化」「結婚」。アジア各国と文化、観光などでの交流を通じ地域活性化を目指す。アジアへ開かれた空港として未永く機能できるよう利活用は着眼、着手ともに大きくいきたい。

静岡空港の開港は本県とアジア各国の主要都市との本格的な交流の始まりである。大交流時代の幕開けだ。そのためにはキーワードにメッセージ性がほしい。開港記念イベントを一過性に終わらせてはならない。

サミットはブライダルデザイン桂田美さんが代表を務めるアジアブライダル協会連合会（東京）がアジア八カ国（日本、中国、韓国、インドネシア、フィリピン、タイ、インド、マレーシア）の伝統様式による模擬結婚式の実演やシンポジウム、最先端のブライダルファッションショーを行う。

サミットは婚礼の欧米化が進み、様式、衣装などアジア固有の伝統文化が失われることに歯止めをかけようと、一九九五年からアジア各国ではほぼ年に一度開かれてきた。日本開催は東京、大阪に次いで三回目。桂さんの夫は旧制静岡中出身で静岡県とは縁が深い。

県内開催は県、県市長会、県経営者協会など二十九団体の代表で実行委員会を設け、会長は松浦康男県商工会議所連合会長が務めている。

サミットに関連し「アジア文化交流プロジェクト」と銘打ち、観光・特産品などの展示を通じ、四つのキーワードを情報発信する「アジア文化交流フェア」の開催も予定されている。

実行委によれば、県内のブライダル産業は結婚費用や新生活の準備費用を合わせると一件当たり八百万円近い生産誘発額があり、これに年間の婚姻件数約二万件を掛け合わせると千六百億円の経済波及効果が見込めるといふ。ブライダル産業には広い意味で少子化対

策への啓発効果も期待できそうだ。アジア各国の新婚カップルがハネムーンで静岡空港に降り立ち、県内の名所、旧跡などに足を運べば、アジア各国との相互交流だけでなく、一体感や連帯感を醸成するきっかけにもなり、存在意義はぐっと増す。

開港記念イベントを実効性が伴う息の長い取り組みとし、静岡空港を分権時代のシンボルとしてほしい。地方の自立の象徴である。

開港記念イベントを実効性が伴う息の長い取り組みとし、静岡空港を分権時代のシンボルとしてほしい。地方の自立の象徴である。